

第59回全宮古中学校夏季野球大会要項

1. 主 催 宮古中学校体育連盟
2. 後 援 沖縄県教育委員会、宮古島市教育委員会、多良間村教育委員会
3. 主 管 宮古中学校体育連盟野球専門部
4. 期 日 令和8年6月6日（土）、7日（日）
予備日：6月13日（土）、14日（日）
5. 日 程 全日程 競技開始 9：00
6. 会 場 『宮古島市民球場』
7. 申込締切 令和8年5月14日（木）15：00 専門部長必着
8. 申込方法 各顧問で申込書を作成し、公印を押印の上、野球専門部長まで申し込む。
9. 参加資格
 - （1）宮古地区の中学校に在籍する生徒で編成されたチームとする。
 - （2）選手の引率は出場校の校長・教員とする。監督等は出場校の校長・教職員（常勤）とする。教職員以外のコーチについては、学校長の認めた者で、地区県に登録された者とする。但し、ベンチ入りについては1名のみとする。
 - （3）参加資格の特例を認める。「開催基準8（6）複数校合同チーム」
 - （4）県・九州・全国大会の代表権を獲得した場合は宮古地区代表としての自覚と責任を持ち、地区中体連の計画および指導を遵守し、県大会・九州大会・全国大会へ参加できる学校であること。
 - （5）宮古中学校体育連盟が主催する本大会に出場するチーム・選手の引率者、監督、外部指導者（コーチ）、トレーナー等は、部活動の指導中における暴力・体罰・セクハラ等により、任命権者又は学校設置者から懲戒処分を受けていない者であること。校長はこの点を確認して、大会申込書を作成する。なお、外部の指導者は校長から暴力等に対する指導処置を受けていないこと。
 - （6）拠点校部活動や地域クラブ活動の参加資格の詳細については、沖縄県中学校体育大会開催基準「特別規程」による。
10. 競技規則 2026年公認野球規則及び全日本軟式野球連盟特別競技規則、本大会細則に準ずる。

11. 大会規定
- (1) 1チームは選手10名以内、監督1名、コーチ2名以内で編成、ただし、監督、コーチは20歳以上とする。
 - (2) 試合は総当たりのリーグ戦方式とする。
 - (3) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色、同型のユニフォームを着用する。シューズ・スパイクについては、色の混在を認める。尚、高校野球対応のものとする。
 - (4) 試合は7イニングとし、得点差によるコールドゲームは3回以降10点差、5回以降7点差以上とする。日没・降雨などで試合が成立しない場合は特別継続試合(サスペンデッドゲーム)を適用する。
 - (5) 全試合とも延長戦(8回以降)はタイブレーク方式(無死1・2塁継続打順制)を適用する。勝敗が決定するまでタイブレーク方式を続行する。
※天候の都合で日程変更がある場合は、本部で協議の上、特別ルールを設定する。
 - (6) 背番号は1～20を使用し、原則としてポジション順とする。
 - (7) 投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、大会中の1日の投球数…100球・1週間の投球数…350球とする。試合中に100球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
※少年・学童部における特別継続試合の投球数は、元の試合で投じた球数を引き継ぎ残りの球数のみとする。(令和4年度各種規定・ルール変更についてより)
12. 試合球 全日本軟式野球連盟公認球(内外ボールM号)
13. 組合せ 第5回道進杯争奪全宮古中学校軟式野球大会の結果によって、組合せが決定しているため、組合せ抽選を行わない。令和8年5月14日(木)17:30(西辺中学校)の監督会にて今大会の確認事項を行う。
- (1) 監督会には監督が出席すること。但し、出席できない場合には代理(教員)を出席させてもよい。
14. 表彰
- (1) 優勝校には優勝旗(持ち回り)、賞状を授与する。
 - (2) 準優勝校には賞状を授与する。
 - (3) 個人賞は決勝進出チームから殊勲、敢闘、打撃(各1名)を表彰し、賞状、楯を授与する。打撃賞の規定打席数は試合数×2打席以上とする。但し、タイブレーク方式は除く。打率が並んだ場合は、打席数、打数、安打数、長打率の順で決定する。
 - (4) 優勝チームの全登録選手に賞状を授与する。
15. その他
- (1) 大会細則については別に定める。
 - (2) 優勝、準優勝には、第78回沖縄県中学校野球選手権大会への出場資格を与える。

第59回全宮古中学校夏季野球大会特別規則

- 1 試合時間試合は1時間30分と計算し、その60分前までには集合する。
- 2 オーダー交換
 - (1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。(5部提出)
 - (2) 攻守決定は、前の試合終了後(第1試合は試合開始 45 分前)に監督立ち合いの上、主将が行う。
- 3 ダッグアウト
 - (1) 抽選番号の若い方が1塁側とする。登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。
 - (2) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止する。
 - (3) ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
- 4 応援
 - (1) 中学生にふさわしい応援をする。(相手に対してのやじ等は禁止する)
 - (2) 応援は攻撃側のチームが優先に行う。
- 5 守備側と攻撃側の捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングで3回タイムの回数制限 以内とする。なお、延長戦となった場合は、1イニングに1回行くことができる。また、攻撃側についても同様とする。
- 6 用具
 - (1) マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないものの球場内への持ち込みを禁止する。
 - (2) 手袋は、原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。
(リストガード等の使用は禁止する)
 - (3) ストッキングの形を統一する。
 - (4) 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B)が完全に消えた用具は使用できない。
 - (5) 捕手(控え含む)は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B)が入ったマスク・スロートガード・レガース・プロテクター・ヘルメット・ファウルカップを着用すること。
また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは、全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B)が入った両側にイヤーフラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを着用すること。
※マスク及びヘルメット(捕手用含む)は、SGマークのついたものとする。

7 試合のスピード化

- (1) 打者・次打者・ベースコーチの4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所へ移動すること。
- (2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
- (3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
- (4) 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
- (5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。

8 その他

- (1) 球場内でのアップは、チーム統一のTシャツでもよい。
- (2) 各球場での芝面利用の際、試合及び正規のシートノック以外は芝生保護のためスパイク以外のシューズで行うこと。
- (3) コーチは、試合前のノックを行う以外は、ベンチから出ないものとする。
- (4) 代理監督は必ずユニフォームを着用すること。
- (5) 選手交代は、監督が球審に告げること。
- (6) 記録員は、ユニフォームか制服とする。また、教職員コーチの服装は平服でもよい。
- (7) 試合中のアップ（キャッチボール）については2組（4名以内）とする。
- (8) バットボーイについては登録メンバーから1名選び、ヘルメットの着用を義務づける。
- (9) 県・地区中体連の規定及び各学校の規則に沿った中学生らしい身なり・容姿で参加する。
- (10) 各チームのゴミは必ず責任を持って持ち帰る。最終試合の両チームは、ダッグアウト、スタンドを清掃する。